

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-176	高等学校	情報科	情報 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	情 I 183-901	高等学校 改訂版 情報 I		

1. 編修の基本方針

- 問題解決の事例を通じて、情報の科学的理解ができるように配慮した。
- 実践的な事例を中心に展開した。また、新しい考え方や技術などを適宜導入していくとともに、技術革新によって内容が陳腐化しないよう配慮し、基本的なものを中心に展開した。記述は、論理展開に配慮した。
- コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、適切に情報を収集し、処理し、発信できる能力を養えるようにした。座学と実習をバランスよくできるように配慮した。
- 望ましい情報社会の構築に不可欠な、情報モラルの考えを育成できるように配慮した。高校生が、「情報」を自分の問題としてとらえられるよう、日常的で具体的な例を多数取り上げた。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 情報社会の問題解決	- 日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号) - 知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号) - 情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号) - 作成した成果物を相互評価することができるようにし、個々人のもつ意見を尊重する心を養えるように配慮した。(第2号)	p. 6～13、 p. 20～23 p. 14～19、 p. 26～27 p. 22 p. 24～25
第2章 デジタル化と情報デザイン	- メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるように配慮した。(第5号) - コミュニケーションにおける配慮を通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号) - 誰にでもわかりやすい表現方法を学習できるようにして、よりよい社会の形成に寄与できるように配慮した。(第3号)	p. 34～35 p. 34～35 p. 50～65
第3章 コンピュータとプログラミング	- 日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号) - 金利の効果をたしかめられるようにして、将来、独立して生活するときの自律的な生活や収入について考えることができるように配慮した。(第2号)	p. 82～85、 p. 94～97 p. 97

第4章 ネットワークとデータ の活用	・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号) ・さまざまな情報システムの例としてPOSシステムをとりあげ、さまざまな職業が相互に関わっていることも理解できるように配慮した。(第2号) ・データの分析から可視化について、具体例をさまざまな分野から多数とりあげ、幅広い知識を得られるようにするとともに、データをグラフ化する方法を示し、グラフの表現によって違った印象を与える例もとりあげ、データから真実を追求できる態度を養えるように配慮した。(第1号) ・日本を訪れる海外からの観光客に関するデータを分析するとともに、日本の観光地に関する情報を集める活動を通じて、日本の伝統と文化について興味をもてるように配慮した。(第5号) ・部活動の実態を分析する活動を通じて、自分の生活や学校活動を自主的、自律的に考えられる態度を養えるように配慮した。(第2号) ・地域に関するさまざまなデータを分析する活動を通じて、よりよい社会の形成に寄与できる態度を養えるように配慮した。(第3号)	p. 124～127 p. 125 p. 128～135 p. 136～137 p. 138～139 p. 142～143
コラム 情報社会を支えた 人たち①～④	・日本人も含めて、情報技術の発展に貢献した世界中の人びとについて知ること、日本について誇りをもてるようにすると同時に、ほかの国についても尊重できる態度をもてるよう配慮した。(第5号)	p. 28～29、 p. 70～71、 p. 106～107、 p. 144～145
巻末資料⑥ プレゼンテーション の工夫	・調べ、まとめ、自分の意見を加えて発表するという活動ができるようにし、個々人の意見を尊重する心を養えるようにした。(第2号)	p. 170～171
巻末資料⑪ 情報社会のおもな 法律	・教科「情報」の内容に関係する法律の条文を多数掲載し、情報社会を生きていくうえで必要なルールの根拠を理解できるように配慮した。(第3号)	p. 178～179

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・国際語としての英語を習得する重要性を踏まえ、アルファベットの略号であらわされる用語については、もとのスペルを付記した。また、漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。
- ・体験を通じて理解することを重視し、見開きごとに「エクササイズ」を設けて、本文の理解を深められるように配慮した。
- ・理解を深められるよう、各章末に「まとめ」「章末問題」を設けた。また、巻末に「総合問題演習」を設けた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-176	高等学校	情報科	情報 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183 第一	情 I 183-901	高等学校 改訂版 情報 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 日常生活との関連性を認識させ、「情報」への関心を高められるよう、親しみやすい題材を取り上げた。
 - 具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。
 - 多数のコラムや欄外に「豆知識」を設け、「情報」への関心のきっかけになるようにした。
- 「情報」についての基本的な概念や原理・法則を着実に習得できるようにした。
 - 本文記述は丁寧におこない、できるだけ図解をまじえて理解できるようにした。
 - 具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。
 - 見開きごとに「キーワード」をチェックできるようにし、学習を進めやすくした。
- 実習活動を通して、「情報」の性質を体験的に理解できるようにした。
 - 見開きごとに、「エクササイズ」を設けし、体験を通じて本文の学習内容が定着できるようにした。
 - 各章末では、パーソナルコンピュータの基本操作、科学的理解のための作業、発表活動など、多様な実習を通じて、さまざまな体験ができるように配慮した。
- 学習段階や興味・関心の異なる生徒に対応するため、幅広い内容を取りあげた。
 - 機器操作の習熟度の差が影響しないよう、パーソナルコンピュータの基本操作も学習できるようにした。
- 平易にわかりやすく記述するとともに、漢字やアルファベットであらわされる用語には積極的にルビを添え、あらゆる学習段階の生徒が無理なく読み進められるよう配慮した。
- 学習の支援につながるように、紙面に二次元コードを配し、解説動画、サンプルデータ、シミュレータ、関連リンクなどを利用しやすくした。
- ユニバーサルデザインフォントを採用し、読みやすさの向上にも努めた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
コンピュータの操作 アカウントの管理	(1) ア (イ) (3) ア (ア)	前見返し 前見返し	1
第 1 章 情報社会の問題解決 ・ 0 1 ～ 0 3 ・ 0 4 ～ 0 7 ・ 0 8 ～ 0 9 章末実習 1 情報を活用して問題を解決しよう 2 SNS での行き違いについて考えよう 3 引用を使ってみよう	(1) ア (ア)、(1) イ (ア) (1) ア (イ)、(1) イ (イ) (1) ア (ウ)、(1) イ (ウ) (1) イ (ア) (1) イ (イ) (1) ア (イ)	p. 6- 11 p. 12- 19 p. 20- 23 p. 24- 25 p. 26 p. 27	9 3
第 2 章 デジタル化と情報デザイン			14

・ 1 0 ・ 1 1 ～ 1 7 ・ 1 8 ～ 1 9 ・ 2 0 ～ 2 3	(2)ア(ア)、(2)イ(ア) (3)ア(ア)、(3)イ(ア) (2)ア(イ)、(2)イ(イ) (2)ア(ウ)、(2)イ(ウ)	p. 34- 35 p. 36- 49 p. 50- 53 p. 54- 61	
章末実習 4 学校紹介ポスターを制作しよう 5 ピクトグラムクイズをつくろう	(2)ア(ウ)、(2)イ(ウ) (2)イ(イ)、(2)イ(ウ)	p. 62- 65 p. 66- 63	4
第3章 コンピュータとプログラミング ・ 2 4 ～ 2 5 ・ 2 6 ～ 3 2 ・ 3 3 ～ 3 4	(3)ア(ア)、(3)イ(ア) (3)ア(イ)、(3)イ(イ) (3)ア(ウ)、(3)イ(ウ)	p. 76- 79 p. 80- 93 p. 94- 97	11
章末実習 6 2進法と10進法を変換しよう 7 素数を見つけよう 8 窓口での待ち時間を考えよう 9 プログラムによる顔検出	(3)ア(ア)、(3)イ(イ) (3)ア(イ)、(3)イ(イ) (3)ア(ウ)、(3)イ(ウ) (3)ア(イ)、(3)イ(イ)	p. 98- 99 p. 100-101 p. 102-103 p. 104-105	4
第4章 ネットワークとデータの活用 ・ 3 5 ～ 4 0 ・ 4 1 ～ 4 2 ・ 4 3 ～ 4 7	(4)ア(ア)、(4)イ(ア) (4)ア(イ)、(4)イ(イ) (4)ア(ウ)、(4)イ(ウ)	p. 112-123 p. 124-127 p. 128-137	13
章末実習 10 ネットワークを調べてみよう 11 ドメイン名を調べてみよう 12 部活動の問題点を見つけて解決しよう 13 地域の課題を調べて解決策を考えよう	(4)ア(ア)、(4)イ(ア) (4)ア(ア)、(4)イ(ア) (4)ア(ウ)、(4)イ(ウ) (4)ア(ウ)、(4)イ(ウ)	p. 138 p. 139 p. 140-141 p. 142-143	4
巻末資料 ①プログラミング図鑑 ②ワードプロセッサを使おう ③表計算ソフトウェアを使おう ④プレゼンテーションソフトウェアを使おう ⑤問題解決のツール ⑥プレゼンテーションの工夫 ⑦電子メールのマナー ⑧HTML/CSS 解説 ⑨表計算ソフトウェア関数一覧 ⑩レポートの書き方 ⑪情報社会のおもな法律	(3)ア(イ)、(3)イ(イ) (1)ア(ア) (4)ア(ウ) (2)ア(ウ) (1)ア(ア) (2)ア(ウ) (1)ア(イ) (2)ア(ウ) (4)ア(ウ) (1)ア(ア) (1)ア(イ)	p. 158-161 p. 162-163 p. 164-165 p. 166-167 p. 168-169 p. 170-171 p. 172-173 p. 174-175 p. 176 p. 177 p. 178-179	1
Python と疑似コード ローマ字入力表、キーボードの操作	(3)ア(イ) (3)イ(ア)	p. 184-185 後見返し	1
		計	65

※年間授業時数を 65 時間として配当している。